

(埼玉県委託事業)

令和7年度

薬剤師確保対策事業（薬薬連携事業）

～在宅医療に対応した薬薬連携の推進～

報 告 書

令和8年3月

一般社団法人埼玉県薬剤師会

目 次

1	背景	1
2	目的	1
3	実施内容	1
4	アンケート結果	2
5	考察	1 0
6	資料編	1 1

1 背景

埼玉県では、薬剤師確保のための施策の策定に向け、県内の薬剤師の充足状況や薬剤師確保に向けた取り組みの具体的内容などを把握するために、令和6年6月～8月にアンケート調査を実施した。このアンケート調査において、薬剤師が確保できれば実施したい取組のうち、最も回答割合が高かった取組は、病院、薬局ともに「地域での多職種連携（薬薬連携含む）」であった。また、病院薬剤師は「他職種と密に連携して業務を行えること」に、薬局薬剤師は「患者に密着した業務を行えること」にやりがいを感じていると回答している。

人口減少・超少子高齢社会の到来により、医療ニーズが増大する中、入退院時における医療機関と薬局の情報連携や在宅医療における他職種との連携は、薬剤師に求められている重要な役割の一つである。これらことから、病院薬剤師と地域の薬局薬剤師の連携体制を強化し、在宅医療における薬剤師全体の資質の向上を図り、支援が必要とされる。

2 目的

入退院時における医療機関と薬局の情報連携や在宅医療における他職種との連携は、薬剤師に求められている重要な役割の一つである。薬剤師全体の資質を向上させるとともに、病院薬剤師及び薬局薬剤師がそれぞれの仕事にやりがいを感じられるよう、病院薬剤師と地域の薬局薬剤師の連携体制を強化・推進する。

3 実施内容

(1) 薬薬連携在宅医療研修会

日 時 令和8年1月25日（日）9：00～16：45

場 所 城西大学 18号館

申込者数 49名

受講者数 45名（内、午後の実技インストラクター2名）

講師：2名

ファシリテーター：10名

研修内容

(1) 静脈栄養や経腸栄養を用いた臨床栄養に関する知識

獨協医科大学埼玉医療センター薬剤部 NST 専門療法士石関 華子

(2) 基本的なフィジカルアセスメントと人工栄養中のフィジカルアセスメント

城西大学 薬学部 教授 大嶋 繁

(3) 「入退院時共有シート」「退院時情報共有シート」「退院時情報共有シート対応報告書」について

1. グループワークの説明
2. シートの課題抽出とシートの改善
3. 運用のための解決方法
4. 発表
 - ・シートの課題改善及び質疑応答
 - ・フローの課題改善及び質疑応答
5. シートとフローの課題改善見直し

(4) 医療材料、在宅点滴処方の注意点

埼玉県薬剤師会 副会長 池田 里江子

(5) 実技

- A：経管栄養剤の実物体験、フィジカルアセスメントの体験
- B：麻薬注射剤の調剤
機械式カセット、ディスポーザブルポンプの注入・管理方法
- C：輸液混注や無菌操作
(アンブルカットやバイアル希釈、連結管の取扱いなど)

(2) 薬薬連携のためのツール等の作成

研修会の中で、病院薬剤師と薬局薬剤師が「入院時共有シート」、「退院時情報共有シート」及び「退院時情報共有シート対応報告書」の課題抽出と運用のための解決方法を検討した。その結果を薬薬連携ツールとして作成した。

- [別紙 1] 入院時情報共有シート
- [別紙 2] 退院時情報共有シート
- [別紙 3] 退院後状況報告書
- [別紙 4] 入院時情報共有シート 運用フローチャート
- [別紙 5] 退院時情報共有シート及び退院後状況報告書 運用フローチャート

4 研修会アンケート結果

(1) 内容

ア) 参加者の属性

- ①性別、②年齢、③経験年数、④勤務先形態

イ) 研修会前後の変化：1「できない」～7「できる」の7段階で回答

- ①栄養学的にリスクのある患者を抽出することができる（栄養リスクの患者抽出）
- ②患者に必要な投与エネルギーを算出することができる（投与エネルギーの算出）

- ③肝不全・腎不全に使用される経腸栄養剤の特徴を説明できる（肝・腎不全の特徴）
- ④末梢静脈栄養と中心静脈栄養の特徴を説明できる（末梢と中心静脈栄養）
- ⑤聴診器の使い方を説明できる（聴診器の使い方）
- ⑥心音の聴診について説明できる（心音の聴取）
- ⑦呼吸音の聴診について説明できる（呼吸音の聴取）
- ⑧人工栄養中のフィジカルアセスメントについて説明できる（人工栄養のアセスメント）
- ⑨麻薬注射剤のカセット充填について説明できる（麻薬のカセットとポンプ）
- ⑩小児輸液の混合調製について説明できる（小児輸液の混合）
- ⑪薬薬連携ツールを活用することができる（薬薬連携ツール）

(2) 結果

ア) 回答者数

事前：44人

事後：36人

有効回答：35人

①欠席者、重複回答者を除く

②研修会前後のアンケート両方に回答していない者を除く

イ) 回答者の属性

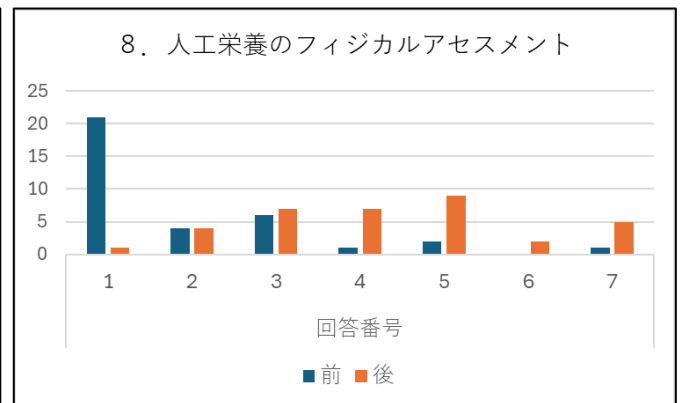
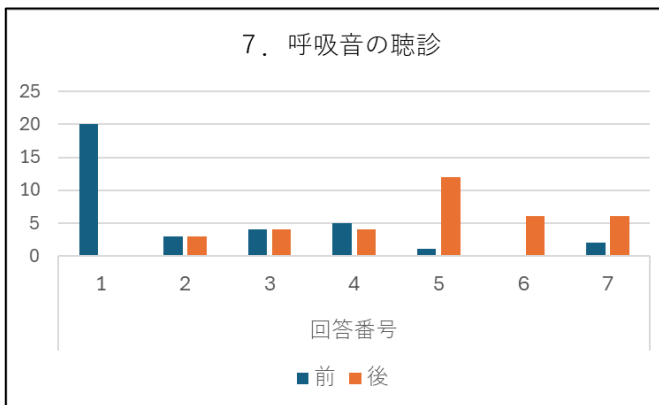
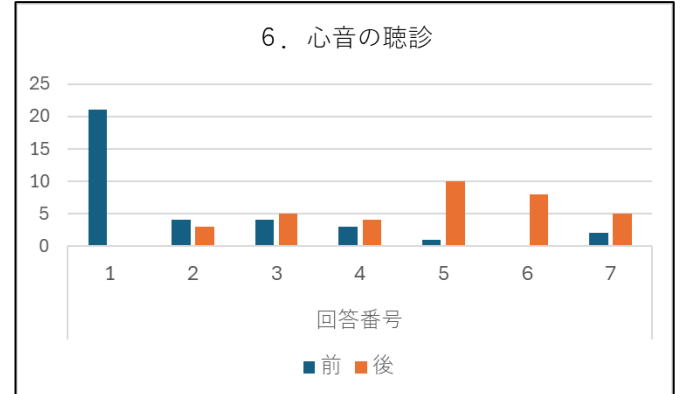
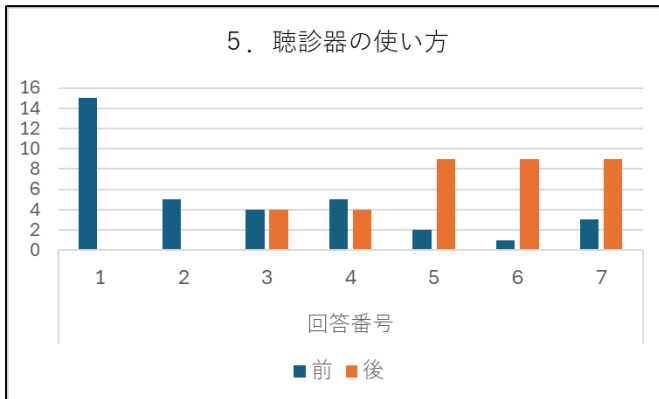
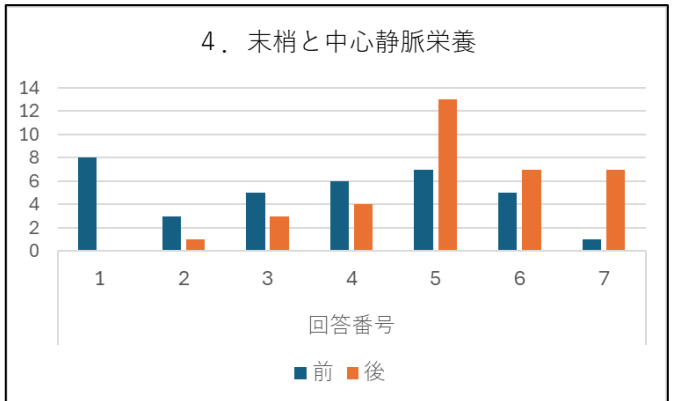
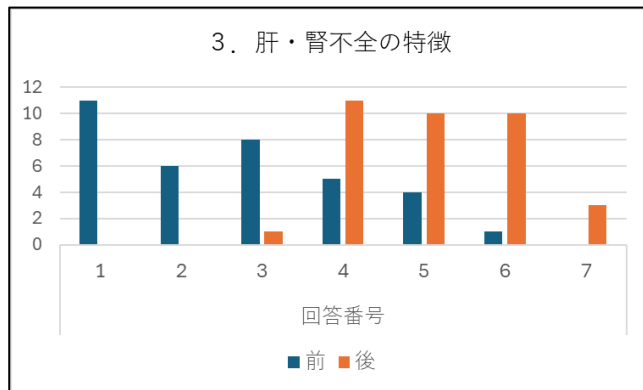
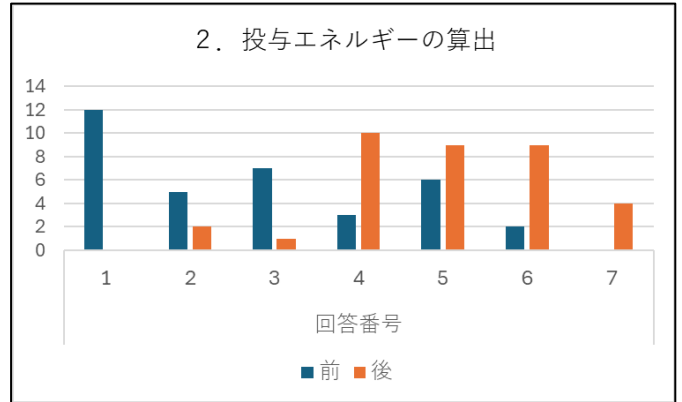
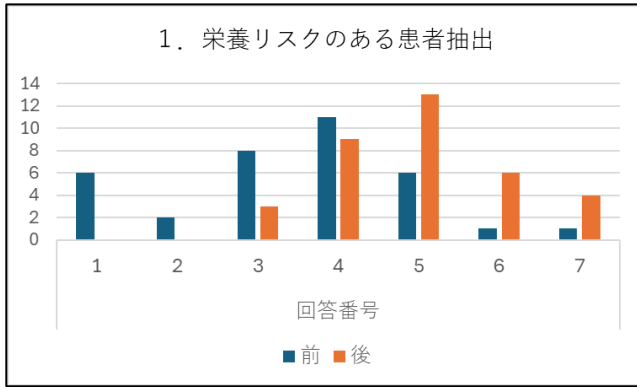
		人数	合計
性別	男性	17	35
	女性	18	
	回答なし	0	
年齢	20代（20歳～29歳）	0	35
	30代（30歳～39歳）	12	
	40代（40歳～49歳）	8	
	50代（50歳～59歳）	10	
	60代（60歳～69歳）	4	
	70歳以上	1	
経験年数	5年未満	0	35
	5～10年	8	
	11年～20年	8	
	21年以上	19	
勤務先形態	調剤薬局	30	35
	病院	5	

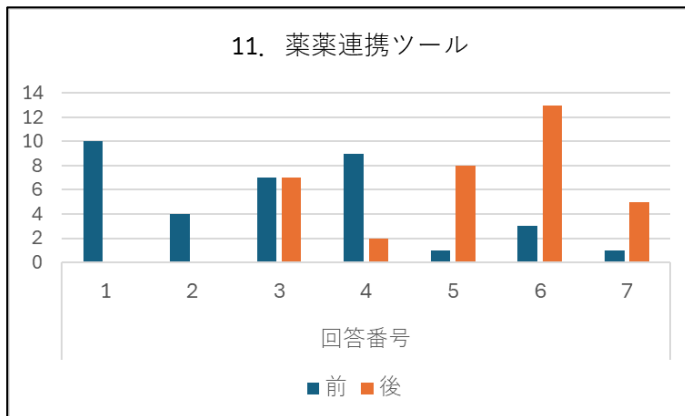
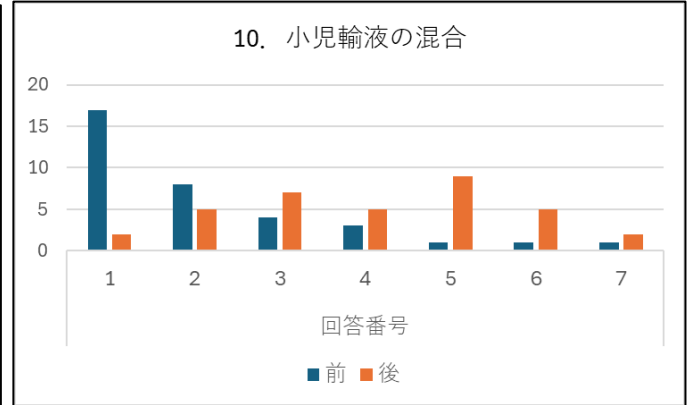
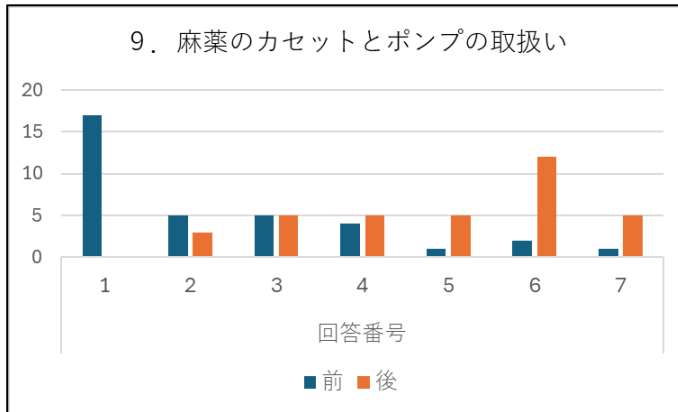
ウ) 研修会前後の回答の比較

質問内容	回答 時期	回答番号							中央値	両側 P 値
		1	2	3	4	5	6	7		
1.栄養リスクの患者抽出	前	6	2	8	11	6	1	1	4	P<0.001 **
	後	0	0	3	9	13	6	4	5	
2.投与エネルギーの算出	前	12	5	7	3	6	2	0	3	P<0.001 **
	後	0	2	1	10	9	9	4	5	
3.肝・腎不全の特徴	前	11	6	8	5	4	1	0	3	P<0.001 **
	後	0	0	1	11	10	10	3	5	
4.末梢と中心静脈栄養	前	8	3	5	6	7	5	1	4	P<0.001 **
	後	0	1	3	4	13	7	7	5	
5.聴診器の使い方	前	15	5	4	5	2	1	3	2	P<0.001 **
	後	0	0	4	4	9	9	9	6	
6.心音の聴取	前	21	4	4	3	1	0	2	1	P<0.001 **
	後	0	3	5	4	10	8	5	5	
7.呼吸音の聴取	前	20	3	4	5	1	0	2	1	P<0.001 **
	後	0	3	4	4	12	6	6	5	
8.人工栄養のアセスメント	前	21	4	6	1	2	0	1	1	P<0.001 **
	後	1	4	7	7	9	2	5	4	
9.麻薬のカセットとポンプ	前	17	5	5	4	1	2	1	2	P<0.001 **
	後	0	3	5	5	5	12	5	5	
10.小児輸液の混合	前	17	8	4	3	1	1	1	2	P<0.001 **
	後	2	5	7	5	9	5	2	4	
11.薬薬連携ツール	前	10	4	7	9	1	3	1	3	P<0.001 **
	後	0	0	7	2	8	13	5	6	

ウィルコクソンの符号付き順位和検定: *:P<0.05、**:P<0.01

研修前後の回答の比較には、ウィルコクソンの符号付き順位和検定を行った。解析にはエクセル統計 Ver4.10 を用いた。研修前後の自己評価は、全ての質問に対して、研修会後の評価が研修会前に比べて有意に「できる」に移行した。特に研修会前は中央値で「1」あるいは「2」（できない）であった「5. 聴診器の使い方」、「6. 心音の聴取」、「7. 呼吸音の聴取」は4段階「できる」に上昇し、「8. 人工栄養のフィジカルアセスメント」、「9. 麻薬のカセットとポンプ」、「11. 薬薬連携ツール」は3段階「できる」に上昇し、これらの項目について理解が深まったことがわかった。





エ) 自身の成長と薬剤師の10の資質

研修後に、薬剤師の10の資質について4段階（1. 変わらない、2. やや向上した、3. ある程度向上した、4. とても向上した）で自己評価し、さらに研修を受けて薬剤師としてどの程度成長したか（1. 成長しなかった、2. やや成長した、3. ある程度成長した、4. とても成長した）を質問。

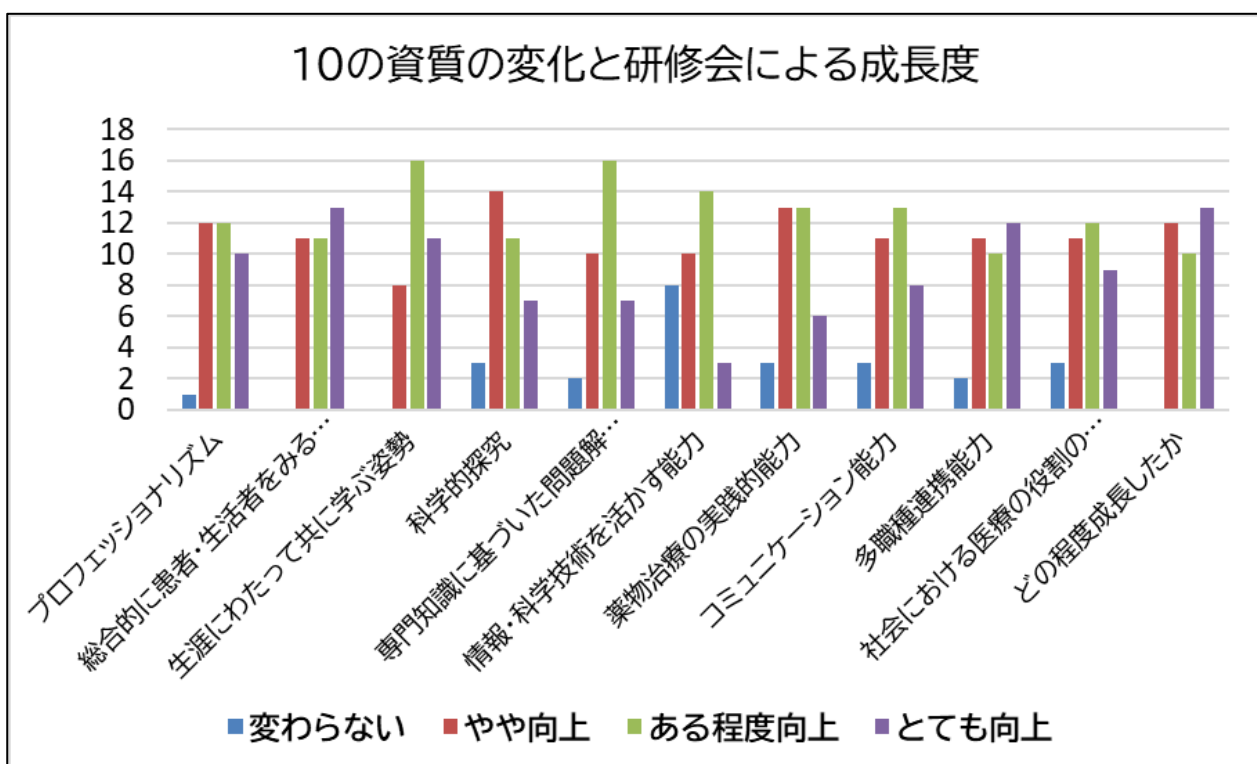
○薬剤師の10の資質

- ①プロフェッショナリズム【最善の努力を重ね、利他的な態度で生活と命を最優先する医療・福祉・公衆衛生を実現する。】
- ②総合的に患者・生活者をみる姿勢【全人的、総合的に捉えて、質の高い医療・福祉・公衆衛生を実現する。】
- ③生涯にわたって共に学ぶ姿勢【自ら到達すべき目標を定め、生涯にわたって学び続ける。】
- ④科学的探究【学術・研究活動を適切に計画・実践し薬学の発展に貢献する。】
- ⑤専門知識に基づいた問題解決能力【薬学的知識と技能を修得し、これらを多様かつ高度な医療・福祉・公衆衛生に向けて活用する。】
- ⑥情報・科学技術を活かす能力【疫学、人工知能やビッグデータ等に係る技術を積極的

に活用する。】

- ⑦薬物治療の実践的能力【的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等の薬学的管理を実践できる。】
- ⑧コミュニケーション能力【共感的で良好なコミュニケーションをとり、的確で円滑な情報の共有、交換を通してその意思決定を支援する。】
- ⑨多職種連携能力【多職種連携を構成する全ての人々の役割を理解し、患者・生活者中心の質の高い医療・福祉・公衆衛生を実践する。】
- ⑩社会における医療の役割の理解【未病・予防、治療、予後管理・看取りまで質の高い医療・福祉・公衆衛生を担う。】

わ) 10の資質の変化と研修会による成長度の回答結果

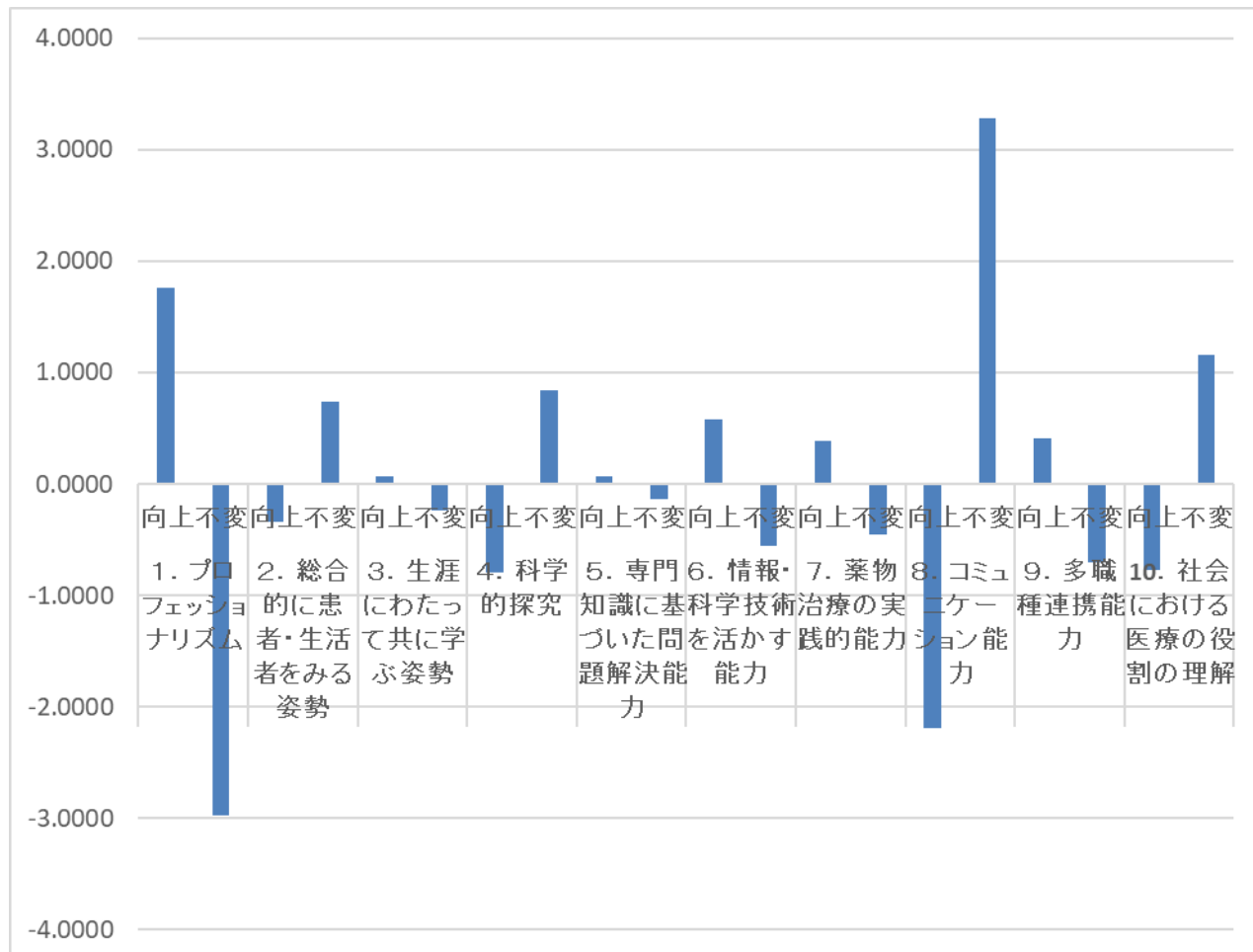


10の資質のうち、多くの項目で「とても向上」、「ある程度向上」と回答され、「研修を受けてどの程度成長したか」の質問には、参加者の2/3が「ある程度向上」と「とても向上」と回答した。

か) 自身の成長に関係した能力の向上

「今回の研修を受けて、どの程度薬剤師として成長したか」の質問に対して、「1. 成長しなかった」と「2. やや成長した」を「成長しなかった」、「3. ある程度成長した」「4. とても成長した」を「成長した」と分類し、これを目的変数として、「1. 変わらない」、「2. やや向上した」を「向上しなかった」、「3. ある程度向上した」、「4. とても向上した」を「向上した」として10の資質について多変量解析（数量化Ⅱ類）を行った。解析にはエクセル統計 Ver4.10 を用いた。

グラフでは研修を受けて「成長した」と回答した参加者が、10の資質に対して、「向上」、「不変」と回答した影響を示している。マイナスの値が最も大きい「1. プロフェッショナルリズム」は「不変」、「8. コミュニケーション能力」が「向上」したと回答した参加者が、今回の研修を受けて「成長した」と回答したことがわかった。



キ) 薬薬連携ツールを活用するための課題

(病院)

- ・マイナンバーカードやクラウドシステムなどの活用など、**ペーパーレス化**を進めていく必要性があると感じました。
- ・お互いのやる気が上がるようになるといいですね。診療報酬の改定がうまくいくと、今回は連携加算がなくなるようなので。
- ・病院薬剤師側の**人的リソースの不足**

(調剤薬局)

- ・埼玉県で共通のツールを開発して頂きたい。将来的には**電子カルテ、電子薬歴からメールで情報共有**できる様にして頂きたい
- ・グループワークを通して、他の薬剤師との**相互理解に繋がりました**。薬々連携にとっても有意

義な時間となりました。

- ・情報提供書類を作成するための**時間の確保**
- ・調剤薬局勤務のため、病院がどのような情報を欲しているのかが具体的に分かる様になること。書面ではなく**オンライン等で回答できるツール**があれば良いなと感じました。
- ・各医療機関、薬局事にやり方や、前向きさなどが違うため、なかなか難しい所があると思います。草の根活動でもあるかなと思います。また、薬薬連携だけでなく、医師、看護師、介護との連携ももっと必要と感じます。
- ・病院側の**意見を聞いたのは貴重な機会**でした。薬局側と病院側で抱えている問題が違うが、全ての病院と薬局で**同じツールを用いて**誰がいつどこで何をするのかをどれだけ共通化できるかが発展のポイントだと感じました。
- ・今回の研修の様に、病院、薬局それぞれに勤務する薬剤師で連携ツールに関して**検討を重ねる**ことで、より効果的な改善がされていくと思いました。
- ・フォーマットに簡単に記入できるツールにして欲しい。全国または県ごとに統一して、**相互に簡単に送信できるアプリ**やホームページ、システムがあると理想で普及しやすいと思います。

㌸ 今回の研修に対する意見(自由記載)

(病院)

- ・**薬局の先生方とお話する機会もたくさんあり**、大変有意義な研修会でした。また機会がありましたら参加したいです。ぜひ埼玉県薬剤師の活動に今回の研修が生きればと思います。今後もこのような研修会を開催いただきたいです。**病薬単位も取得できるとより良い**と思いました。
- ・もう少し大宮や浦和などの中心部でやっていただけると助かります
- ・準備が大変だったと思います、ありがとうございました。

(調剤薬局)

- ・実際に触れたり、その場での疑問に答えていただけて記憶に残る研修会になりました。
- ・薬々連携ツール始めて触れる機会になって良かった。病院・薬局それぞれの視点があると思うのでこのような**意見交換出来る場を経験出来て**良かった。
- ・今日の様な研修会を継続して実施して頂きたいですご担当頂いた先生方ありがとうございました
- ・具体的な内容と実践を通してとても良い学びになりました。ありがとうございました
- ・午前のグループワークで**病院薬剤師と薬局薬剤師が話すことができたのは、とても良かった**です。また、午後の実践研修も記憶に残り明日からの義務の自信につながります。ありがとうございました。
- ・非常に面白く、今後も同研修会があれば参加したい
- ・メーカーからの使用方法を聞いてとてもためになりました ありがとうございました
- ・勉強になりました。ありがとうございました。今、OMROMの血圧計やApplewatchでも心電図が取れるので、薬局でのフィジカルアセスメントやセルフメディケーションの意味でも、**心電図について学ぶ機会**があるといいなと思いますので、ご一考頂けますと幸いです。

- ・実践的な研修を受けることができ、大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・退院時情報提供書について、病院薬剤師に疑問に思っていたことを聞いたのがよかった
- ・病院薬剤師会とのコラボ？は、今までと雰囲気は全く異なりました。お互いの本音や、同じ在宅業務に携わる薬剤師間の意見交換が出来て大変有意義な研修でした。
- ・病院薬剤師との意見交換ができた事が大きな成果。顔の見える実地研修の良さを感じた。
- ・長時間だったが、実施前と実施後では在宅医療や薬薬連携に対する考え方や先入観が大きく変わり、今後もっと知識、技能を向上させ、地域に貢献できる薬剤師になりたいと強く感じた。参加して良かった。
- ・内容の濃い研修をありがとうございました。
- ・病院薬剤師さんと話しが出来てお互いの仕事の理解が深まりました。退院時情報提供書の作成についての話が興味深かったです。
- ・講義、グループワーク、実技ととても充実した研修会でした。運営の先生方、ありがとうございました。
- ・とても勉強になりましたし、ファシリテーターの先生にもお世話になりました。ありがとうございました。
- ・在宅で胃ろうの患者さんを見る事が多く、もう少し胃ろうに関して実践的にも学べるかと思っていたが今回の研修のメインがそこではなかったため、少し残念だった。病院薬剤師と薬局薬剤師それぞれの立場でいろんな意見を言い合えたことで、理解も深められて良かった。

6 考察と展望

本年度は、病院薬剤師と薬局薬剤師がともに学び、連携を深めることを目的として、薬薬連携在宅医療研修会を実施した。臨床栄養に関する知識及びフィジカルアセスメントの講義に加え、薬局薬剤師と病院薬剤師が共同で入退院時の情報共有シートに関する課題抽出及び運用のためのフローチャート作成を行い、その成果をグループワークとして発表した。また、経管栄養やフィジカルアセスメント、麻薬注射のカセットやポンプの取扱い、小児輸液の混注の3つの中から2つを選択する実技を実施した。

実技内容に差はあるものの、研修会前後の自己評価の結果は、いずれの項目も有意に「できる」へ移行しており、知識及び技術の習得に一定の効果が認められた。また、研修会全体を通じた自己の成長度評価では、コミュニケーション能力の向上を実感した参加者の割合が高く、自由記載においても薬局薬剤師、病院薬剤師双方から、相互の意見交換が有意義であったとの評価が多数寄せられた。これらの結果から、本研修会は薬薬連携の基盤となる相互理解の促進に寄与したと考えられる。また、研修会に対する意見から、今後の連携の課題として、オンラインを使用した情報共有ツールの使用が上げられていた。

さらに、病院薬剤師と薬局薬剤師のグループワークでは、入退院時の情報共有について具体的な検討を行い、双方の意見を取りまとめた入退院時情報共有シートや運用フローチャートを成果物として作成した。今後はこれをさらにブラッシュアップするとともに、実際の運用を通じて有効性や課題の検証を行い、実装へつなげていくことが重要である

来年度以降は、モデル地区を選定し情報共有ツールの運用を行いながら検証し、他地区への運用につなげていきたい。さらに本研修会の成果を一過性のものとせず、薬薬連携の質の向上へ発展的に継続して開催することとしたい。